

つながる・支える 地域支援員

地域支援員は地域情報の発信や、地域おこし活動、地域内外の交流をはかり、地域の力を強くするために市職員として働いています。



▲活動内容や「地域支援員だより」を見ることができます



佐伯高校のために 人と人をつないで 支えたい



稲田 元樹
(広島市出身)

私は、佐伯高校魅力化 担当です。
具体的には、佐伯高校を応援したくなる、入りたくなる学校にすることで、入学者数の増加を目指しています。そのために、佐伯高校のPRや探究学習のサポート、公営塾の運営や生徒の下宿先の確保などを行っています。昨年度、公営塾を見直すため、佐伯高校や地元中学校の生徒や保護者にアンケートを行い、他校視察や教員の声も参考にしました。こうして生まれた「自主学习・個別指導教室」は初回から想像以上の参加があり、大成功！生徒や保護者の声をかたちにできたことが何より嬉しかったですね。

佐伯高校の生徒たちはみんな笑顔がキラキラしてるんです。彼らの笑顔がもっともっと増えるよう、生徒や高校に関わる人々の思いをくみ取り、人と人をつなぐことで佐伯高校の魅力を高めていきたいと思っています。

コーヒー店で経験を活かし、友和地区で夢だったカフェを開きました。地域の人たちが集える場所、安らげる場所にしていきたいと思っています。

地域支援員としての任期はあと7カ月ですが、残りの期間も精一杯頑張ります。



人と人が つながる場所、 それが商店街



狩山 穂香
(竹原市出身)

私は、商店街活性化を担当しています。商店街が子どもの頃よりさびしくなっているのを見て「自分の力で地域を盛り上げたい！役に立ちたい！」という思いを強く持ったのがきっかけで、地域支援員になりました。

活性化のために、商店街を紹介する冊子「商店街はっけん」を作成したり、イベントのお手伝いをしたり、近隣大学と連携して活動を行うこともあります。

着任当初から抱いていた「商店街でプロレスができればいいな」という熱い思いが実現できました！子どものプロレス体験会や、プロレスラーの試合を楽しむ来場者の

姿を見て、本当に嬉しかったです。

商店街を活性化させるには、そこで働く人々や地域の皆さんの力が欠かせないと思います。私は、人と人がつながるきっかけをつくり、みんなと一緒に商店街を盛り上げたいです。

イベントやお祭りの主役は『参加する皆さん』なので、楽しんでもらいたいと同時に、私もその場を楽しむ気持ちを大切にしながら“支える側”を心がけ皆さんの力になりたいです。



空き家一軒一軒に それぞれの ストーリーがある



田崎 裕司
(大阪府高石市出身)

私の担当は 定住推進 です。
東京で働くうちに、今後のキャリアや生き方を改めて考えるようになりました。

両親がいる広島で、家族との時間を大切にしながら、新しい分野にも挑戦してみたいと思っていたところ、元々関心のあった「地方創生」や「不動産」がテーマの定住推進担当の募集を見つけたのです。

活動してみて感じたのは、空き家一軒一軒に、それぞれのストーリーがあるということ。住んでいた人の想いや歴史が詰まっていた、ただの物件として扱うのではなく、背景を知ること新たな活用方法や継承のヒントが見えてくることにやりがいがあるんです。

地域のことをよく知るために「自分で現地に行ってみる」ことを大切に、人の話を聞くだけで分かった気にならず、自分の足で動き、汗をかいて、地域の人と直接交流することを心がけています。

温かい気持ちで接してくださる地域の人々のために、空き家や移住支援の知識と経験を深め、地域の問題解決のために、継続的にまちの魅力を内外に発信できる存在になりたいと思っています。

